

まほるば



弘前病院の理念

わたしたちは、医の倫理と病院としての使命に基づき患者さまの生命と人権を尊重し
良質かつ適切な医療を提供するため、最善の努力をします

第54号 2005年12月発行

やわらかな光あふれる弘前の冬

— エレクトリカルファンタジー —



雪に包まれた弘前の街。12月1日～2月28日の期間、市内文化財等17施設がライトアップされ、弘前城追手門広場や追手門通りは、美し

いイルミネーションに輝きます。

この「エレクトリカルファンタジー」は、光・音・文化財の競演をコンセプトに、ライトアップされた洋館をバックにしたゴスペルライブも開催されます。

追手門通りから弘前教会礼拝堂を目指し、イルミ

ネーションのやわらかな光の中を歩いて行くと、ひときわ輝くツリーが見えてきます。車で通りかかる度に、子供も大はしゃぎのこのツリー、雪の中で見上げると本当に大きくて綺麗です。ライトアップされた教会や洋館も素敵ですが、毎年一番の楽しみです。

澄んだ冬の空気の中、たまには車を降りて、弘前の光あふれる街を歩いてみてはいかがでしょうか。



庶務係 工藤 真淑

津軽三味線文化講演



11月14日（月）に看護学校自治会主催の文化講演会を開催しました。テーマは、「津軽三味線の歴史について」です。大條先生は、当院の門近くの大條食堂（10月で閉店）のご主人で、津軽三味線の歴史研究者として津軽三味線を世界に広めた方です。「津軽三味線の誕生」、「津軽三味線物語始祖仁太坊」などたくさ

んの著書があります。津軽三味線のルーツは、ジャズやブルースと同じで、魂の叫びを表現した音楽であると言われていました。ねぶた節、田植え唄、仁太坊節などは大條先生が作曲したもので、当日は、門下生4名とともに三味線演奏を披露していただきました。

また、当校の3年生5名と教員2名が加わり、三味線に合わせて「正月、花、赤とんぼ、ふるさと」などの童謡を合唱し、なごやかなうちに1時間30分が過ぎました。入院中の患者様も出席し、講演や三味線、童謡とバラエティーに富んだ一時でした。

教員 花田 聖子

医療安全に関する研修会（講演会）

「リスクマネジメントのあり方—医療ミス・医療過誤・医療事故等防止のために—」というテーマで11月17日（木）に当院大会議室において講演会を開催しました。参加人数は79名と職員の4分の1以上の参加となりました。

講師の深堀幸次先生の「口頭指示は患者を守るため、病院を守るため、医師を、同僚を守るため、そして自分自身（ライセンス）を守るために止めましょう。」という言葉が印象に残りました。また、「風通しの良い職場」、「コミュニケーション」、「異なる角度からの

意見交換」、「チーム医療」についてもお話がありました。安全文化の構築にかかせないキーワードだったと思います。

それぞれについて私たちの病院ではどうあれば良いのか、改めて職員一人ひとりが考え、行動していくことが必要だと再認識した講演会でした。

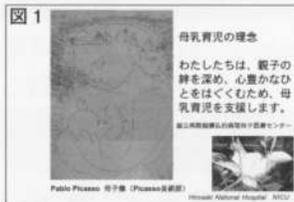


医療安全管理係長 前田美佐子

「赤ちゃんにやさしい病院」をめざして

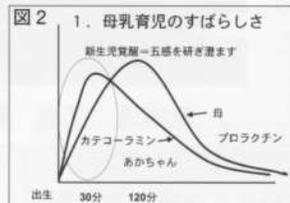
— 今、なぜ母乳育児？ —

「赤ちゃんにやさしい病院」という言葉には二つの意味があります。一つは、赤ちゃんには勿論、お母さんに、そしてご家族にも優しい病院です。母乳育児を通してご家族と赤ちゃんの間に強く、豊かな絆を作っていただく手助けをする病院という意味です。もう一つは、1991年にWHO/UNICEFが提唱した、母乳育児に取り組んでいる病院に与えられる名称です。その認定証にPablo Picassoの母子像(Picasso美術館)が掲げられています(図1)。



1. 母乳育児のすばらしさ、早期授乳の意味、母子相互作用について

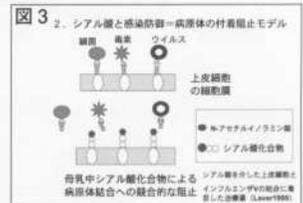
赤ちゃんは誕生して、すぐの時期は図2にあるようにカテコラミンが血中に多く存在するために覚醒状態で、五感(触覚、味覚、視覚、聴覚、嗅覚)を働かせて母を認識します。最初の「母」がすり込まれます。一方母のプロラクチンも出産時には低下しますが、新生児の吸吮により上昇します。このことから私たちは状態が許される限り、出生直後の赤ちゃんをお母さんの胸に抱っこしてもらおうカンガルーケアを行っています。また、母と子の間には授乳をすることにより、目と目を合わせ、お互いの体温、匂いを感じ、有効的な細菌叢を母からもらい、母と子が同調するという母子相互作用が得られます。



2. 母乳中の成分 / 赤ちゃんを守り育てる秘密

a 糖質：赤ちゃんのエネルギーを維持するための特別な糖質(乳糖等)が80~90%含まれていて、体、

脳の発育に寄与しています。乳糖が構造の中に含まれているシアル酸化合物は感染防御の働きがあることも解明されています(図3)。b 初乳中に含まれる液性免疫物質：S-IgAは蛋白分解酵素に対しても失活せず病原体が侵入するのを防ぐ役割があります。c 初乳中の細胞成分：マクロファージ・リンパ球、多核白血球等が存在し、これらが1,500~4,000個/mm³含まれます。もし細胞数2,000個/mm³を含む初乳を1回20mlずつ8回飲むと3億個の細胞が赤ちゃんの体を守ります。



3. 育児行動としての授乳

授乳は、哺乳動物の「心と体」の発達の原点であり、赤ちゃんの要求するままに頻回の授乳が大事です。心の発達には、脳の「ニューロンネットワーク構築」にほかなりません。そのために、抱っこして語りかけも大事です。

4. 終わりに当たり

赤ちゃんが健やかに大きく育つように、ご家族や周りの方たちが、お母さんへの暖かい支援を私たちとともにして下さることをお願いします。



小児科医長 野村由美子

消防訓練実施(夜間想定)



しています。

今回は、11月15日(火)午後1時30分から、午後10時頃に東2病棟17号室より出火したとの想定で、消防本部予防課の立ち会いのもと、夜間想定消防訓練を実施しました。

夜勤者と宿舎居住者の限られた職員で、昨年の反省点を改善し、模擬患者も実際の患者避難を想定して附属看護学校学生50名に依頼し、更に前回と違う避難搬送方法を試行するなど強力に取組みました。

訓練は、火災報知器の鳴動から出火場所の確認、

当院では、職員の防災意識の高揚及び知識の習得並びに緊急災害(火災)に対する的確な対応を図ることを目的として、消防訓練を年2回実施

初期消火、本部設置、非常連絡・通報・放送、応援要請、避難誘導と迅速な行動により6分強で出火区画からの避難が完了しました。特に、夜勤師長担当の杉山師長の気迫ある真剣な指揮と行動により、各職員が大きな声で互いに声を掛け合って連携し、病棟内は大変緊張感のある訓練となりました。訓練終了後、小倉予防係主査の講評では、機敏な行動、的確な指揮・連絡、応援者の迅速な対応などが評価されました。院長からは、私たち医療に従事する者の使命は、患者様の生命と安全を守ることであり、災害は何時起こるか分からないので、常日頃から訓練を重ね万全を期すようにとの発言がありました。職員の皆さん、大変ご苦労様でした。



庶務班長 高見 茂

外来診療一覽

◆外来医師診療一覽表 (H17年11月1日現在)

診療科		月	火	水	木	金
内科		人見博康	小沢一浩	人見博康	小沢一浩	小沢一浩
呼吸器科		山本勝丸	中川英之	中川英之	山本勝丸	中川英之
消化器科		佐藤年信 吉谷元	佐藤年信 中畑元	佐藤年信 吉谷元	中畑元 (吉谷元)	佐藤年信 中畑元
精神科 (外来診療は休診中)		● 休 診	● 休 診	● 休 診	● 休 診	● 休 診
小児科		杉本和彦 野村由美子 (佐藤 啓)	野村由美子 藤泰史	杉本和彦 神田進 (佐藤 啓)	神田進 藤泰史	野村由美子 杉本和彦 藤 啓
外科		山中祐治 木村寛	高橋克郎 三上勝也	横山昌樹 山中祐治	横山昌樹 高橋克郎	三上勝也 木村寛
整形外科	午前	柿崎寛成 佐々木資嗣 近江洋	柿崎寛卓 菅原卓	佐々木資成 田中 大	佐々木/柳澤 大鹿周佐	柿崎寛大 田中 大
	午後	/	/	/	/	柿崎寛大
脳神経外科		● 休 診	● 休 診	木村正英	● 休 診	● 休 診
皮膚科	午前	鳴海博美 間山淳	鳴海博美 間山淳	鳴海博美 間山淳	鳴海博美 間山淳	鳴海博美 間山淳
	午後	間山淳	/	鳴海博美	/	間山淳
泌尿器科		橋本安弘	橋本安弘	橋本安弘	橋本安弘	橋本安弘
産婦人科		真鍋麻美 葛西亜希子	佐藤春夫 葛西亜希子	真鍋麻美 葛西亜希子	● 妊婦検診	佐藤春夫 真鍋麻美
眼科	午前	田中洋	蒔苗順義	田中洋	蒔苗順義	田中洋
	午後	蒔苗順義	/	/	蒔苗順義	/
耳鼻咽喉科		黒田令子 阿部尚央	黒田令子 阿部尚央	● 手 術	黒田令子 阿部尚央	黒田令子 阿部尚央
放射線科	午後	/	阿部由直	/	/	/
麻酔科		● 手 術	高澤鞆子 工藤 明	● 手 術	高澤鞆子 工藤 明	● 手 術

※学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

職場紹介 (東3病棟)

東3病棟は、佐藤副院長をはじめ、中畑消化器科部長、吉谷医師(ちなみに二人の名前は「元」。でも読み方は違います。)の3名の医師と、福士看護師長をはじめ看護師18名、看護助手3名のスタッフで、日々患者様の治療と看護・療養のお世話をさせていただいています。

当病棟は、消化器内科病棟で、胃から腸及び肝疾患や血液疾患・膠原病・糖尿病などの患者様が入院されています。病院の中で患者数が多い診療科であり、他の病棟にいつもご迷惑をおかけしている次第です。また、3階であるため、北側の病室からの岩木山の眺望はとても素晴らしく、患者様や私たちスタッフを癒してくれます。

日常は、朝のミーティングの後、注射の準備に入りますが、確認作業から準備終了まで約1時間を要します。病棟が満床の時は50名の患者様のうち、40数名がIVHを挿入されていたり点滴を24時間持続で行っているため、補液管理が重要な看護師の仕事の一つになっています。注射の担当になると、一日中注射の準備や整理・指示受けに追われ、肩や目が疲

れてしまうこともあります(決して年のせいではありません。)。しかし、注射について学べることがたくさんあります。補液管理をマスターした

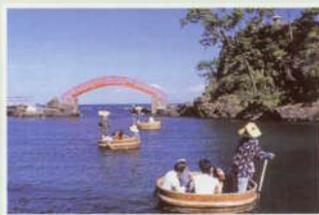


い方、東3病棟への勤務を希望しませんか?その他に検査も多いのですが、内視鏡や超音波室、放射線科などとの連携は必須であり、患者様が安心して検査や治療を受けられるようにチーム医療を大切にしています。また、慢性疾患や化学療法のため長期入院となることがほとんどのため、患者様や家族とのコミュニケーションを大事にし、新人からベテランまで協力して取り組んでいます。

今後もスタッフ一同「元気な笑顔で、あなたをサポートします」をモットーに、患者様が満足できる看護ケアを提供していきます。

東3病棟 副看護師長 小林由紀子

ふるさと紹介 — 佐渡市 —



私の故郷は、新潟県の佐渡市です。人に出身地を聞かれて「佐渡ヶ島です」と答えると大概の人は一度では信用してくれません。

佐渡に行かれたことのある方であればご存知でしょうが、面積は結構広く東京23区の1.5倍もあります。佐渡に行けばふらっと曾我ひとみさんやジェンキンスさんに会える訳ではないのです。島の南北には海岸線から切り立つように高い山脈があり、海沿いを車で走ると段々畑ならぬ段々田んぼを見ることができます。一番高い山は標高1,000m以上あり、そこからながめる景色はまさにあの佐渡ヶ島の形です。平野部は南北の山脈に挟まれた中心部だけで、あまり広くはありません。

佐渡といえば日本海に浮かぶ寂しい北の孤島で、老人クラブの団体旅行先といったイメージを持たれる方も多いようです。もちろん能楽や金山、たらい舟、佐渡おけさなど、伝統芸能に触れることもできますし、砂金取りや無名異焼（むみょういやきと

いう佐渡独特の陶芸）なども体験できます。また、数年前からは朱鷺も繁殖し、遠くからですが観察することができます。

しかし、私の一番のお勧めは、テントやバンガローに泊まって、佐渡のアウトドアを満喫することです。佐渡には、遠浅や砂浜、岩場など変化に富んだ海水浴場が多々あり、夏を過ごすには最適の観光地です。また、釣り人にとってはまさに天国のような島で、大物を求めて全国から太公望が訪れます。

食の話をする、冬場のブリ、甘エビ、カニは絶品です。また、いごねり、ながも、トビウオのすり身汁など佐渡独特の名物があります。変わったところでは、佐渡のカツ丼をあげることができます。基本的に卵でとじず、タレを付けられたカツがそのままご飯の上のっています。カツ自体の味わいを堪能でき、一度食べると癖になります。佐渡に行った折には是非ご賞味下さい。

佐渡の宣伝大使のように我が故郷をPRしてしまいましたが、手付かずの自然が味わえる島です。機会があったら一度訪れてみて下さい。

呼吸器科部長 中川 英之

★ 作品（川柳）募集のお知らせ

当院では、広報誌「まほろば」に掲載する“川柳”を募集しています。応募される方は、患者様でも職員でも何方でも結構です。多数の応募をお待ちしています。

【応募方法】 ◆ 用紙は、備え付けのものでも、それ以外でも結構です。

◆ 応募は、備え付けの箱に入れて下さい。

（* 箱は、駐車券をパンチしている机の上に設置しています。）

定期路線バスの運行時刻変更のお知らせ



	弘前駅前発	国立病院着発	弘前駅前着
	8:05	8:20	8:35
	12:10	12:25	12:40

※ 平成17年12月1日より冬季ダイヤ改正に伴い、定期路線バスの“運行時刻”と弘前駅での“のりば”が変更になりました。（駅前のりば／3番のりば、運賃／一律140円、日曜・祝日運休）

※ 定期路線バスは、弘前駅から当院の正面玄関を往復するバスです。当院を受診される方は、是非ご利用下さい。

発行元 **独立行政法人国立病院機構弘前病院**
Hirosaki National Hospital
責任者 副院長 佐藤 年信

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地
TEL0172-32-4311 FAX0172-33-8614
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/hirosaki/>